

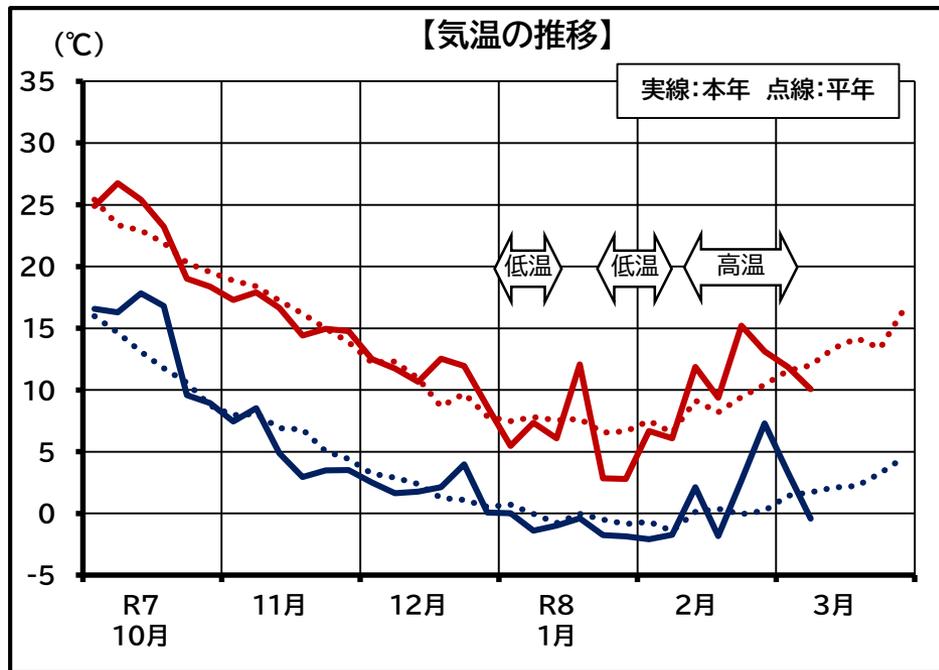
小麦「びわほなみ」栽培研修会

- 気象
- 生育状況
- 今後の栽培管理

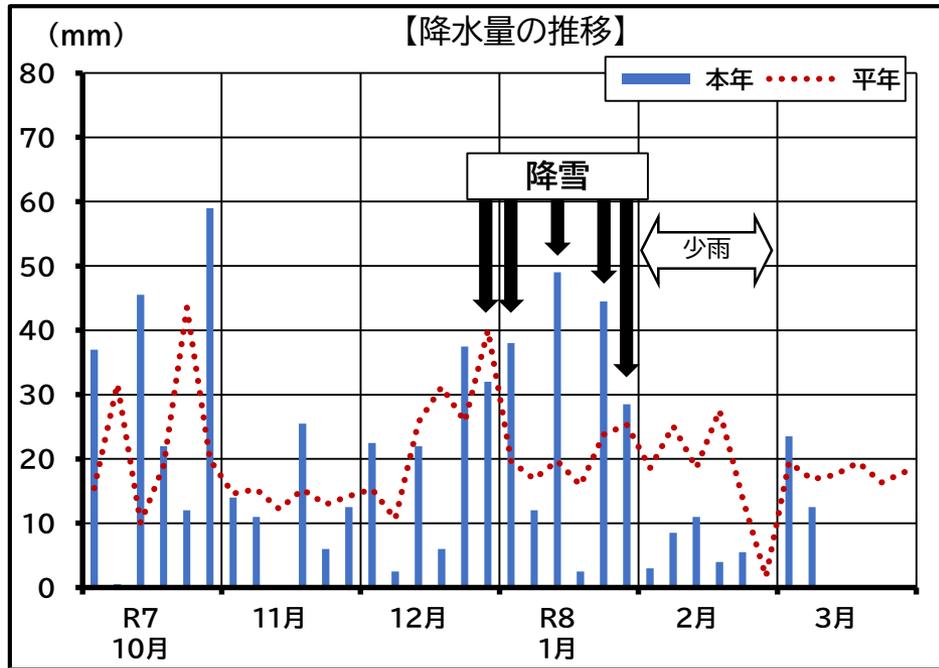
湖北農業農村振興事務所 農産普及課

気象

- 1月は積雪や低温により生育が停滞していたが、2月は一転して高温、少雨に推移したことから、適期に播種されたほ場では生育が一気に進んだ。



- 一方、播種が遅れたほ場では生育停滞からの回復が、適期に播種されたほ場よりも悪く、ほ場による生育の差が顕著になっている。



生育状況(3月初めの生育)

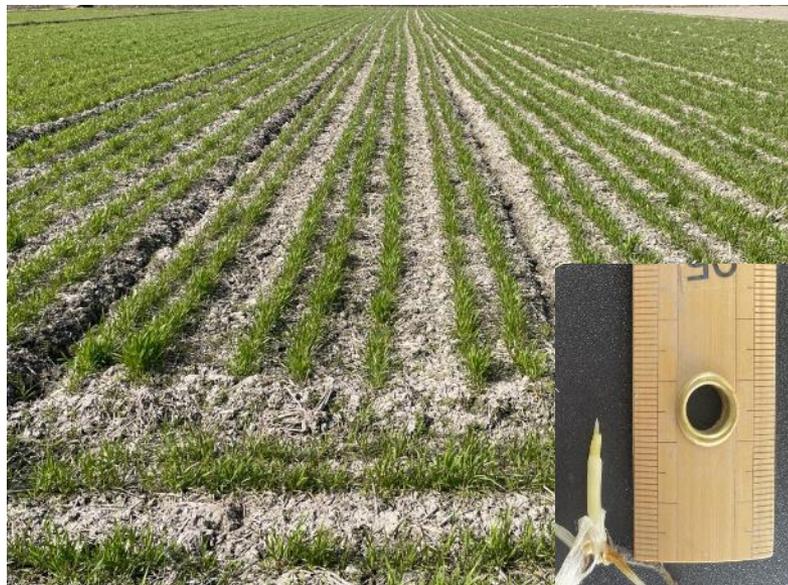
各地の生育状況(長浜地域)※11月15日播種

2月初め時点



茎数:約250本/㎡

3月9日時点



茎数:約400本/㎡

播種量:8kg/10a

基 肥:麦パンチ 40kg/10a (窒素成分:14kg/10a)

穂 肥:セラコートR2500 20kg/10a (窒素成分:5kg/10a)※2/15施用

合計窒素成分:19kg/10a

生育状況(3月初めの生育)

各地の生育状況(伊吹地域)※11月7日播種

2月初め時点



3月9日時点



茎数:約570本/m²

茎数:約750本/m²

播種量:9kg/10a

基 肥:麦パンチ 40kg/10a (窒素成分:14kg/10a)

穂 肥:セラコートR2500 20kg/10a (5Nkg/10a)

合計窒素成分:19kg/10a

生育状況(3月初めの生育)

各地の生育状況(近江地域)※11月12日播種

2月初め時点



茎数:約440本/m²

3月9日時点



茎数:約500本/m²

播種量:9kg/10a

基 肥:麦パンチ 30kg/10a (窒素成分:10.5kg/10a)

穂 肥:化成201 20kg/10a (窒素成分:4kg/10a)※2/26施用

合計窒素成分:14.5kg/10a

生育状況(3月初めの生育)

※後期重点施肥

2月初め時点



茎数:約440本/m²

3月5日時点



茎数:約760本/m²

播種量:9.5kg/10a

基肥:国産化成444 15kg/10a (窒素成分:2.1kg/10a)

穂肥:尿素 25kg/10a (窒素成分:11.5kg/10a)※3/2施用

合計窒素成分:13.6kg/10a

今後の栽培管理(排水対策)

- 今の時期に湿害を受けると茎数が十分確保できず、穂肥をしっかりと効かせられない。
- 水口(尻水戸)周辺や排水溝の点検をし、滞水している場合は速やかに溝さらえ等を行うこと！



降雨後に排水口に向かって水が流れているか確認を！！

今後の栽培管理(雑草対策)

- 収穫作業や乾燥調製作業に支障となる雑草が発生していないかほ場を確認し、雑草が見られる場合は草種に応じた除草剤を散布する。

例:カラスノエンドウ→MCPソーダ塩(収穫45日前まで)
タデ類→バサグラン(小麦収穫45日前まで)
ハーモニーDF(収穫45日前まで)

- 問題となる雑草は、畔周辺や畝の肩などから侵入するため、ほ場内に蔓延する前に非選択性除草剤等(ほ場内の周縁部登録剤)で防除すること。(麦生育中も可)



カラスノエンドウ



タデ

ほ場内で繁茂したタデ



畦畔やほ場周縁部で繁茂する雑草

今後の栽培管理(実肥施用)

R7年産ではタンパク含量の向上が課題となりました！

- タンパク含量を上げるための基本技術
開花期(出穂 10 日後)に窒素成分で2~4kg/10a 施用する。
- 穂数が多く、生育良好なほ場では収量が高くなるため、タンパク含量が低下しやすいので、出穂期前後の生育を観察して判断する。

緩効性肥料を穂肥に施用したほ場でも、
葉色低下に注意！

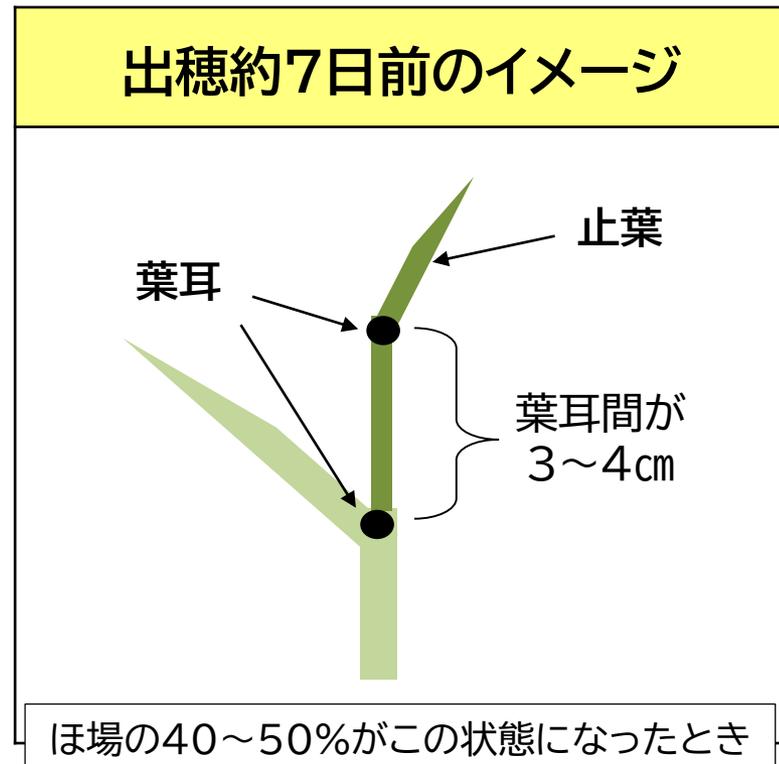
今後の栽培管理(実肥施用)

- 収量とタンパク含量を上げる場合
→3月下旬～4月上中旬の止葉出葉期
～穂揃い期の生育(莖数)と葉色を観
察し、葉色の低下がみられた場合は、
出穂7日前追肥および**開花期**を施用
する。

(例) 出穂7日前 2kgN/10a
+
開花期 2～4kgN/10a

※湿害等で穂数が少ないほ場は、出穂10日後追肥量を
2～4kgN/10aの範囲で調整する。

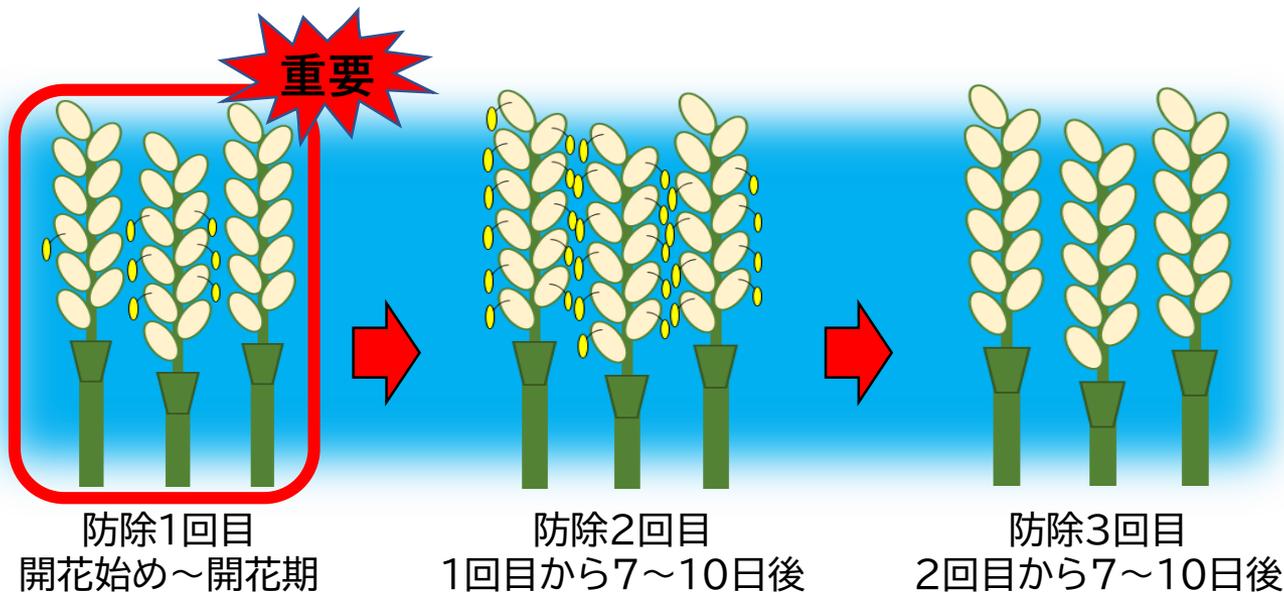
特に穂肥に速効性肥料を施用したほ場では注意!



今後の栽培管理(赤かび病防除)

- 「びわほなみ」は赤かび病に弱いため、必ず2回防除を行う。

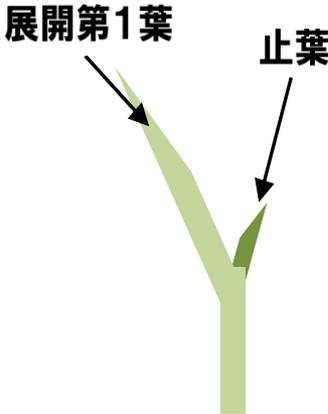
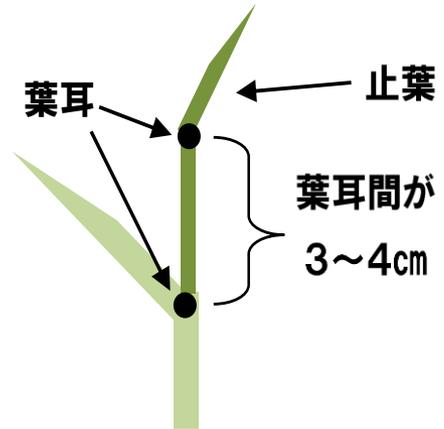
(注意報や気象状況によっては3回目を実施)



感染した「びわほなみ」の穂
(滋賀県病害虫防除所提供)

今後の栽培管理(赤かび病防除)

・「びわほなみ」の生育ステージ目安

出穂約17日前	出穂約1週間前	出穂期
 <p data-bbox="328 878 1052 971">ほ場の40~50%がこの状態になったとき</p>		<p data-bbox="1304 478 1729 664">ほ場の40~50%で穂先が出ている状態</p> <p data-bbox="1246 664 1787 756" style="text-align: center;">開花始め</p> <p data-bbox="1284 756 1748 978">出穂期5~10日後 (気温によって大きく変動)</p>

- ・ほ場の40~50%で穂が出た状態を出穂期とし、そこから5~10日で開花始め
 ※出穂期から開花までの日数は、気温が高いと早くなり、低いと遅くなる。

今後の栽培管理(赤かび病防除)

赤かび病とは。。。

- 赤かび病が発病すると、多くは不稔または被害粒となる。
- 発病した粒にはカビ毒が含まれており、多発すると基準値を超過する場合があります、流通(出荷)不可となる。
- 農産物検査では赤かび粒の混入限度が**0.0%**(1万粒に4粒以下)
- 収穫後は速やかに乾燥施設へ搬入し、赤かび病のまん延を防止すること。



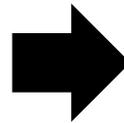
健全粒



被害粒

今後の栽培管理(適期収穫)

- 子実水分が25%以下になってから収穫
→25%の目安は爪先で粒がなんとか割れる程度
- 収穫が早すぎて水分が高くと、穀粒の損失や品質の低下が発生
- 刈り遅れると、脱粒の増加、容積重の低下や穂発芽による品質の低下が発生
- 露のつきやすい早朝、降雨後の収穫は避ける
- 収穫後は速やかに乾燥施設へ搬入



今後の栽培管理(適期収穫)

穂発芽とは。。。

- 穂発芽とは、収穫期前の降雨によって、穂上の子実が発芽する現象。
- 「びわほなみ」の穂発芽性は「やや易」と評価されており、気象条件により穂発芽するため、注意が必要。
- 農産物検査では、**2%以上の発芽粒混入がある場合は規格外。**



※**穂発芽**すると子実に含まれるでんぷんが分解され、
品質(加工適性)が著しく低下。